

## 低密度植栽試験地調査（成長量・生存率）手順書

### 1. 背景・調査目的

池田町森林整備計画実行管理推進チーム（以下、チーム）における平成26年度課題として「カラマツ類低密度植栽の施業方針策定」を設定し、道有林試験地の現地検討会及びチーム内での協議を経て、平成27年4月1日変更の池田町森林整備計画（以下、整備計画）に施業方針を明記した。また、同年度に池田町有林（字豊田）内においてグイマツ雑種 F1 低密度植栽地（以下、F1 試験地、面積：1.28ha、植栽密度：1,323 本/ha）、カラマツ低密度植栽地（以下、カラマツ試験地、面積：0.87ha、植栽密度：1,515 本/ha）を設定した。

低密度植栽地における初期生育状況及び定着状況を把握する事は、整備計画に掲載している施業方針を検証する上で極めて重要であると考えられる。そこで、F1 試験地、カラマツ試験地及び対照地（試験地と同じ林班内に属しており、かつ従来の施業方法で植栽を実施した箇所）における成長量及び生存率を下記に示す方法で把握する事とする。

### 2. 調査方法

対照地として試験林内の3年生～5年生までの林地にて設定する。

各調査地において下図の通り、植栽列15列、1列当たり10本の計150本を調査対象地として設定する（面積：F1 試験地…0.11ha、カラマツ試験地…0.09ha、対照地…0.07ha）。試験地は植栽後及び1～5年生時の秋に、対照地は平成27年度時林齢～5年生時の秋に調査を実施する。列の先頭となる植栽木にはピンクテープを巻きつけ、ピンクテープには列番号を明記する。調査項目は樹高（単位：cm）とし、枯死木については、枯死原因を推定できる枯死木は原因をナラタケ、獣害、雪害、誤伐、その他の5区分で記録する。樹高は地際から梢端部までをコンバックスで計測する。梢端部が二股に分かれている場合は、長い方を選択して計測し、野帳に二股に分かれている旨を記載する。調査体制は2～3名とし、1名は野帳、残りの人員は樹高計測及び枯死状況の調査を行う。

